

はじめは音色だけ変え、慣れてきたらアルアイレ・アポヤンドの奏法もきりかえる。

赤い音符で音色・奏法の切り替えを行う。さらに慣れたらアルアイレとアポヤンドを逆にしての練習も行う。

そうほう きか ちょうちょう れんしゅう  
奏法の切り替えは、まずはト長調で練習する。

The image shows a single staff of sheet music for violin. The key signature is one sharp. The melody consists of eighth and sixteenth notes. Fingerings are indicated above the notes: '2pos' at the beginning, '5pos ②' for the first note of the second measure, '1 3 4' for the first note of the third measure, '1 3 1 2 4' for the first note of the fourth measure, '3 1 3' for the first note of the fifth measure, and '1 3 1 2 4' for the first note of the sixth measure. Performance instructions include 'sul ponticello' and 'al tasto' repeated twice. Articulations are marked with red dots on specific notes. The music ends with a sharp sign at the end of the staff.

○**sul tasto**(読み:スル タスト イタリア語) 指板の上、近くで弦を弾く。

おとで がぞう よう ゆび つめげんたい なな

やわらかい音が出る。画像3の様に指、爪を弦に対して斜めにあてることで、よりやわらかい音が出る。



がぞう がぞう がぞう  
sul tasto 画像1 sul tasto 画像2 画像3  
みきて くす かのうせい はじ がぞう よう しばんじょう  
右手のフォームが崩れる可能性があるため、初めは画像1の様に指板上ではなく

ちか うえあた ひ  
その近く、サウンドホールの上辺りで弾き、

慣れてきたら指板上での演奏を試してみてください。

○ sul ponticello (読み: スル ポンティチェロ イタリア語) 駒の近くで弦を弾く。



がぞう  
画像1

## がぞう 画像2

みきて くす かのうせい はじ こま よ す ほう よ  
右手のフォームが崩れる可能性があるため、初めは駒に寄り過ぎない方が良いかもしれません。

また、爪の角度を弦に直角に当たり（画像2）、指を普段より素早くたたんでも硬い音が出しやすいです。

sul tastoからsul ponticelloに移動する時は、右ひじの脱力で右手を落とすようにして移動します。

左肩を絶対に横に開かないように気をつけましょう。

○al tasto(読み：アルタスト) ぞうご すこ しざん む みぎて うつ ひ  
（造語） 少しづつ指板に向かって右手を移しながら弾く

少しずつ指板に向かって右手を移しながら弾く。  
かた おと すこ おと へんか つか  
硬い音から少しずつやわらかい音に変化させたいときに使う。

よ ぞうご すこ こま む みぎて うつ ひ  
○al ponticello(読み：アルポンティエロ) 少しずつ駒に向かって右手を移しながら弾く。

やわらかい音から少しずつ硬い音に変化させたいときに使う。